

Ⅱ 令和7年度 学校評価(関係者評価)まとめ

1 教育目標 「『自主・自律』の心を育てる」－ 心豊かに自ら学ぶ子の育成－
2 基本方針 <めざす学校像> 子ども一人ひとりが生き生きと過ごせる学校 <めざす児童像> ①勉強だいすき がんばる子 ②心やさしく 正しい子 ③みんなで運動 きたえる子 ④進んで行動 やりぬく子
3 指導目標 1、考え、表現し、学力を高め合う子どもの育成 2、自他のよさを知り、かかわり合うことのできる子どもの育成 3、自他のいのちの大切さを理解するとともに、心身の健康・体力づくりに励む子どもの育成 4、目標を持ち、明るい心で挑戦し続ける子どもの育成 5、質の高い教育環境づくり 6、家庭・地域との連携 7、教師力の向上

評価基準

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	成果 ◆課題	関係者評価を受けて ■保護者 ◎学校運営協議会委員	達成状況
考え、表現し、学力を高め合う子どもの育成	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現 ○学びの基盤となる読解力の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、教職員全員で研究を重ねるとともに、外部講師の指導を受けながら、実践力を高めることができた。 ●根拠・理由・主張を明確にして発言する指導や、学年で統一した話型の提示など、読み取った内容をもとに考えて表現する言語活動の充実を図り、授業改善を進めることができた。 ●授業におけるICT活用を推し進め、児童の思考過程や考えを即時に共有したり、可視化できたりする場面が増えた。互いの意見を広げたり深めたりする学習活動により、主体的・対話的で深い学びが実行できつつある。 ●手紙や振り返り等の書く活動を計画的に取り入れ、「多作」の意義を共通理解しながら指導を進めた。構成を意識した文章指導を継続することで、発達段階に応じた表現力の育成につながっている。 ◆子どもの学びの質をより深めることを意識し、根拠に基づいて思考し説明できる授業づくりと、ICTの効果的な活用をさらに発展させるための研究を進めていく必要がある。 ◆図書ボランティアの協力を得て、図書室の環境整備や読み聞かせ等を進めている。また、各学年でピピオバトルや本の紹介なども行っているが、本に親しむ児童を育てるための取組は、今後さらに工夫・継続していく必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「お子様は、学校の授業がよくわかっている」に対し、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」との回答が76%で、昨年度と同様に、学習活動について概ね肯定的に受け止められている。また、学校の取組により、子どもが楽しく学んでいるとの声もあり、教職員の指導や日常の関わりに対する感謝の意見も多く見られた。 ■読書習慣の定着については肯定的な割合が高いとは言えないが、読書週間や図書室利用の取組については評価する声もあり、今後の継続した働きかけが期待されている。 ◎「児童の授業態度は良好で学びが充実している」とのご意見をいただいた。また、Chromebookの活用や教職員のICT活用についても高く評価された。一方で、読書離れがなかなか改善されていないという課題も指摘され、今後も家庭と連携した継続的な取組の注力すべきと考える。 	A
自他のよさを知り、かかわり合うことのできる子どもの育成	○子どもの居場所づくり、絆づくりを進める児童の主体的な取組の推進 ○いじめをはじめとする問題行動や不登校の未然防止、早期発見・早期対応 ○「生命」や「心」を大切にする「心の絆」を育む教育の推進 ○多様な教育的ニーズへの対応と、包摂性のある教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ●朝会や児童集会において、各委員会からの発信を積極的に取り入れた。運営委員会は、持ち物や雨の日の過ごし方の提案に加え、明るい学校生活を啓発する動画を作成するなど、学校生活のルールや改善点について主体的に考え、実行に移す機会を増やした。これにより、「学校をより良くしたい」という子ども一人ひとりの意欲を高めることができた。 ●ペア学級での校舎めぐりなど、異学年交流の機会を継続して設け、良質な仲間づくりに取り組んだ。交流を通して、児童が人との関わりに安心感や喜びを感じられる場面が増えている。 ●今年度も昨年度に引き続き、「性の多様性」についての授業を実施した。授業に留まらず、日常の学校生活においても互いの違いを尊重する視点を共有し、認め合い支え合う態度の育成を図ることができた。 ◆全ての児童の居場所づくりとして、多様な教育的ニーズに応じた支援の充実と、校内での情報共有の強化を今後も進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「思いやりや親切な行動、感謝の気持ちをもって生活している」という項目については、約9割もの肯定的な回答が得られた。日常の人間関係づくりについては、概ね良好に受け止められている。 ◎「地域での見守りの中で、子どもたちの大きな声での挨拶から元気をもたらしている」との温かいご意見をいただいた。「今後も地域で子どもたちを見守り続け、健全育成に繋げていきたい」と言っていた。ただけだ。 	A
自他のいのちの大切さを理解するとともに、心身の健康・体力づくりに励む子どもの育成	○正しいインターネットの活用法と情報モラルの育成、およびそれにかかる保護者への啓発の継続した取組 ○「電子版ウェルネス手帳」や体力・運動能力調査を活用した運動習慣の定着と体力の向上 ○健康教育・食育の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットトラブル防止講座を継続して実施するとともに、3年生では総合的な学習の時間に情報モラル学習を位置付け、より注力して取り組んだ。愛護センターの講師による授業や参観日のワークショップを通して、児童・保護者双方への啓発を進めた。 ●体育科では、柔軟活動や外部講師の活用による系統的な授業づくりを進めた。また、5・6年生では「電子版ウェルネス手帳」を活用し、体力状況の把握につなげた。 ●保健委員会による換気の呼びかけや、給食委員会による残食削減の取組など、健康意識や食への関心を高める実践を進めた。 ◆情報モラルについては、アンケートや日常の観察、保護者との連携を通して、児童の実態を的確に捉えていく必要がある。その上で、未然防止の視点に立った指導の充実と、より効果的な家庭への啓発を進めていくことが課題であると考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■情報機器の利用に関するルールやマナーについては、一定の定着が見られるが、デジタル社会の風潮を踏まえ、今後も家庭と連携した継続指導が必要と考える。 ◎「公園で遊ぶ児童の姿が多く見られる一方で、ゲーム機や携帯電話を頻繁に使用している様子も見受けられる」との意見があった。情報機器の利用に伴うトラブル防止の観点から、「家庭での適切な管理を期待するとともに、学校においても継続した啓発を続けてほしい」との意見をいただいた。 	B
目標を持ち、明るい心で挑戦し続ける子どもの育成	○自尊感情の向上に向けた、児童の内面理解に基づく指導の充実と心のケア ○外部人材の登用によるキャリア教育の推進 ○持続可能な社会に向けて、自然と触れ合う体験型環境学習等の「SDGs」との関連を意識した教育活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「心の相談アンケート」や「アセス」の活用を継続・充実させ、児童の困り感の把握と内面理解に努めた。学年会や職員会で情報共有を速やかに行い、組織的に対応を検討する体制づくりに取り組んだ。 ●地域ボランティア(図書・園芸・ミン・九九等)との交流を充実させ、異世代との学びの機会を広げた。また、「職業人と語ろう」「消費者金融教育」「命のボランティア講座」「日産わくわくエコスクール」など外部人材を活用した学習も継続し、社会や仕事への関心を高める取組を進めた。 ●外部企業の協力を得て、リサイクルや食品ロスをテーマとした環境教育を実施した。再生肥料の体験的な活動にもつなげ、学習内容の広がりを図った。 ◆SDGsの視点を取り入れた学習活動については実践を行ったが、単発で終わらせず、継続的・発展的な取組としてさらに広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「学校は子どものことで相談しやすい」との評価が多く、家庭や地域との連携も概ね良好である。相談に丁寧に応じる姿勢は信頼につながっており、子どもが安心して挑戦できる環境づくりが推進していると受け止められている。 ◎「個々の児童理解を深め、教職員間で情報共有を図りながら組織的に対応することを続けてほしい」との意見をいただいた。 	A